◎**今週の御言葉**　「山上の変貌」（マルコの福音書9章2～9節）
「そのとき雲がわき起こってその人々をおおい、雲の中から、『これは、わたしの愛する子である。彼の言うことを聞きなさい』という声がした」(9:7)　　仲森文穏

○イエス様がペトロ、ヤコブ、ヨハネを連れて高い山にのぼられた時のお話しです。その６日前、イエス様は弟子たちに受難予告をされました。しかし弟子たちは本気にしませんでした。イエス様はとても孤独だったに違いありません。この世は不条理に満ち、仕方がないことだらけです。この世の仕方がないことを安易に、神様の御心にすり変えてしまうことはないでしょうか。しかし神様の御心というのは、選びとるもので、激しい葛藤を伴うものです。イエス様が山に登られたのも、祈って御心を問うためです。そしてイエス様のお姿が白くまばゆく輝いたのは、神の子としての内面が内側から輝いたというべきでしょう。そのイエス様を励ますかのように、エリヤとモーセとが現れます。エリヤもモーセも、旧約聖書を代表する偉大な人々です。その光景を見て、ペテロが言います。「私たちが、幕屋を三つ造ります。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ」と。

○するとどうなったか。エリヤとモーセとイエス様の姿は雲におおわれ、その雲の中から「これは、私の愛する子、これに聞け」という声が響き、イエス様のほかは誰もいなかったのです。エリヤとモーセ、彼らは言わばヒーローであり、多くのファンがいました。しかし今ペテロたちの前で、かってのヒーローたちは消え去り、「これは、わたしの愛する子である。彼に従え」という神様の声がしたのです。この山上の変貌事件は、このように新旧のヒーローの交替、主役が劇的に交代したことを示しています。私たちの周りにも大勢のモーセやエリヤがいます。でも私たちもイエス・キリストに聞き従うという道を選び取って歩んできたのです。

ペトロが「３つの幕屋を建てましょう」と言ったのは、イエス様の栄光の姿を何らかの形で記念したかったからでしょう。しかし、イエス様はさっさとこの栄光の山を降りていかれるではありませんか。フィリピ２：６以下に記されている通り、イエス様は、ご自分の栄光の姿に安住するつもりなどなく、人々の罪や苦しみ、悩みのうずまくこの世、地上の生活へと戻ってこられます。腕を伸ばし、人々を抱きしめるために戻ってこられます。キリストの腕は、暖かく、どこにでも届く。十字架にまで自分を捧げつくす愛の腕です。

私たちも十字架の福音を高く掲げ、キリストの腕、また指として用いていただきましょう。「これはわたしの愛する子、これに聞け」という御言葉を心に刻んで信仰の日々を歩んで参りましょう。